

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

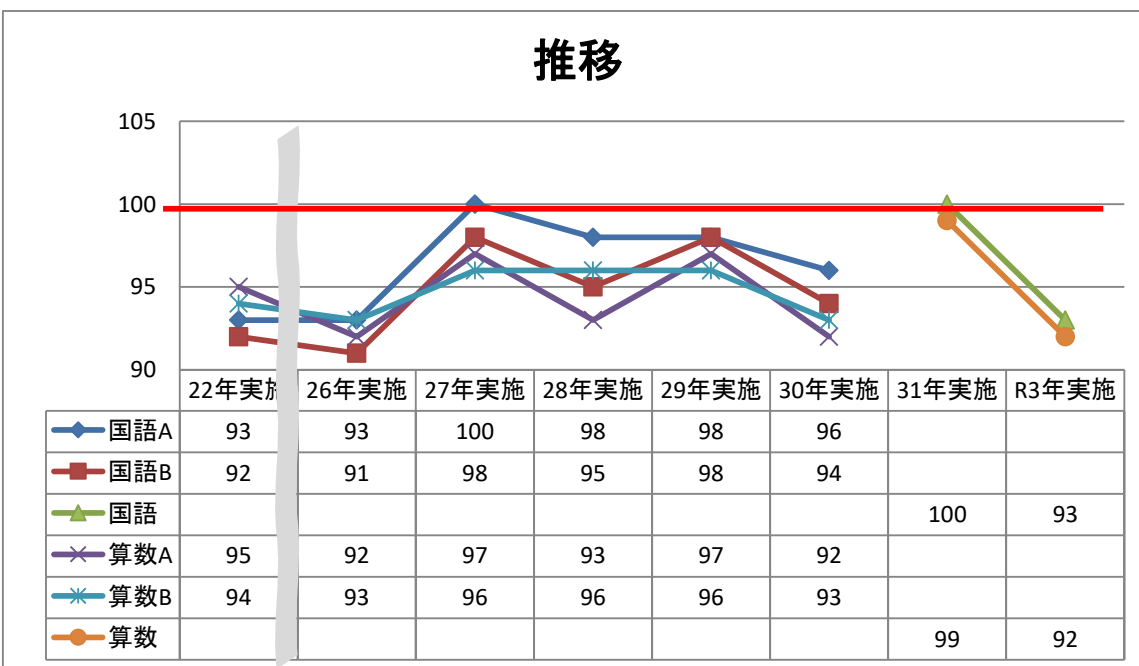
○ 令和3年度の全国学力・学習状況調査において、標準化得点(本校平均正答数÷全国平均正答数(公立)×100)で「国語80、算数79」を上回る。

## 3.指標に向けての取組

- 学ぶ意欲と計算力を培う「いなちゃんパワーアップタイム(鍛ほめ)」を設定し、基礎基本の定着を図る。
- 算数科においては、全単元複数体制で授業を行い、学習内容の定着を図る。
- ねらいを明確にした「かく」活動を、授業に位置づける。
- 朝の活動の時間に、宿題でつまづいている部分の補充を行う。

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	93	92
嘉麻市	95	96
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

## 5.各学校における分析

- 国語・算数において、短期目標を達成することができた。特に、記述式の問題における無解答率は、県と比較しても大きな差はない。要因は次の三点が考えられる。
  - 一つに、自分の考えを図や言葉でかく活動を、授業に位置付けたこと。
  - 二つに、算数の授業における、学ぶ意欲の向上を図る導入の工夫・専科教員を有効に活用した学力の補充。
  - 三つに、鍛ほめの活用。
- 短期目標については達成することができたものの、平均正答率は全国・県を下回っている。国語「読むこと」、算数「数と計算、図形」については、その開きが大きい。特に、国語では、「内容の中心となる事柄の把握、必要な情報の読み取り、中心となる語や文を使った要約」、算数では、「速さを求める除法、面積の求め方」に大きな課題がある。また、前学年までの、既習内容が十分に定着していないことから、基礎基本の定着にさらに努める必要がある。

## 6.各学校における今後の取組

- 校内研における「学ぶ意欲を高め、学力の向上を目指す算数科の学習指導～かく活動の位置づけと適応題の工夫を通して～」取組の日常化。【継続】
- 「いなちゃんパワーアップタイム(鍛ほめ)」を活用した、学ぶ意欲や自己肯定感の向上及び基礎基本の定着。【継続】
- 朝の活動の時間における、単元テスト補充(D層に複数体制で個別支援)。【新規】
- 算数における、全学年複数体制授業及び習熟度別指導の実施。(D層中心に支援)  
【継続】
- 国語において、大事な語や文に線や印をつけながら読むこと、文字数制限など条件を提示してかく活動の設定。【継続】
- 算数において、図からの立式、公式を使った練習の徹底、前学年までの学習内容の定着。【継続】
- 家庭学習の習慣化を図る、家庭学習強化週間の定期的な実施及び宿題の個別化。(C層D層)  
【継続】
- 専科教員を中心とした放課後個別指導の充実。【継続】

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取り組を進める。
- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。
- 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。